

2 板碑資料の調査と『八千代市内の有刻板碑の集成』の刊行

藤 由美

はじめに

地域の中世史にとって歴史的に重要な資料である板碑について、平成3年に刊行された『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』（注1 以下『市史』と略す）の板碑データの詳細と、その後発見された板碑の情報、特に拓影について知るため、2021年から八千代市立郷土博物館（以下「市博物館」と略す）館蔵の拓本と板碑所在地の調査を行ってきた。

特にこれまで公開されてこなかった板碑の拓影については、調査の都度、『史談八千代』第46～48号（注2～4）に掲載し、本会主催の「ふるさとの歴史展」で展示してきた。

このうち市内の日蓮宗地域の板碑については、一応整理がつき、その集成を『史談八千代』第48号（注4）で報告した。

全市域の板碑の集成については未完であったが、2024年9月、八千代市内全域の有刻板碑のデータ、拓影と翻刻を、100頁の冊子にまとめ、私家版として刊行した（注5）。

本稿では、その概要と照合調査の続報として種子板碑のうち、『史談八千代』第46～48号に掲載していなかった板碑の情報を報告し、その考察を加える。

1. 「八千代市内の有刻板碑集成一覧表及び拓影と翻刻集」について

八千代市内で見つかった板碑については、本会の顧問であった故村田一男氏により八千代市史編さん事業の中で中世の金石文として集成され、『市史』（注1）では、149基の板碑が一点ずつその出土地と銘文、梵字、法量が記載されていて、地域別の分布や時代による推移、宗派の別などが分析できる元データとなっている。

その後、平成20年刊行の『八千代市の歴史 通史編』（注6、以下『市史 通史編』と略す）では、25基増えて無刻を含む171基の板碑の所在別・年銘別の集計表が載っているが、残念ながら25基のそれぞれのデータは示されていない。

また、2020年6月に、本会による神野の土井昭雄家の多量の板碑群の発見と調査があり、この発見の成果を「ふるさとの歴史展」などで市民へ周知したことにより、さらに神野で十三仏板碑1基（注7）と小池で題目板碑1基（注8）が新たに発見され、2024年9月現在、市内全体のその数約200基を超えると推定される。

このうち、無刻の板碑や破片を除き市内の全有刻板碑165基について、そのデータを集成し、「八千代市有刻板碑集成一覧表」を作成した。

近年の板碑研究では、銘文のみではなく、梵字や蓮座や花瓶（けびょう）の形態、二条線の有無、異体字などの情報により分析、考察されるようになり、例えば、『市史 通史編』（注6）では、正覚院館跡の板碑を市博物館主催企画展図録（注9）の写真からその蓮座の特徴を「蝶型蓮座板碑」として注目し、八千代市の近隣地域や、多く見つかっ

ている多摩川下流域の分布状況と、蓮座の特徴から板碑生産の工房の探求を試みている。

このような事例から、今後の板碑研究のためには、板碑一点ずつの拓影の収集とその公開が必須であると考え、市博物館から、村田氏が寄贈した館蔵の拓本の複写の提供、館蔵の板碑実物の実見の便宜をいただき、『市史』（注 1）記載のデータなどと照合する作業を行ってきた。

今回、村田氏寄贈の館蔵拓本による 47 基（重複、照合不能の 3 点を含む延拓本数 50 点）、館蔵の板碑実物から新たに採拓した 12 基、筆者が採拓または所蔵の 21 基、『市史』及び千葉県が調査した報告書からの転載 5 基の計 88 基の拓影とその翻刻をまとめ、「拓影と翻刻集」を作成し、『八千代市内の有刻板碑の集成』（注 5）に掲載した。

『八千代市内の有刻板碑の集成』の「八千代市有刻板碑集成一覧表 1」では、所在地・法量・現況・主尊・分類・銘文・造立年月日銘・西暦の必須項目をリストにした。その簡略版を本稿の「表」にしめす。

「一覧表 2」は、調査に際しての資料の属性で、『市史』及び『千葉縣史料 金石文篇』（注 10 以下『縣史』と略す）などの出典・板碑実物の現所在と市博物館館蔵資料番号・拓本の所在と市博物館館蔵拓本番号・これまで拓影の掲載誌を明示した。

「拓影と翻刻集」は、88 基の拓影の細部が観察しやすいよう、1 基 A4 版 1 ページで構成した。本稿では、紙面の関係で、「一覧表 2」は省略し、拓影と翻刻は『史談八千代』未報告の 29 点のうち 18 点を抜粋、縮小して図 2～6 に掲載する。

なお、製本した『八千代市内の有刻板碑集成』の冊子は、八千代市中央図書館と市博物館、国会図書館、千葉県立図書館、近隣五市（佐倉・印西・白井・千葉・船橋）の各図書館、大正大学と立正大学の各研究室に寄贈し、また PDF データを関係者に提供した。

2. 板碑資料照合作業の経過と主な種子板碑の検討

2023 年 6 月 14 日と 21 日、7 月 4 日に、八千代市立郷土博物館で行った館蔵の板碑実物と拓本、『市史』データとの照合、採拓作業を行った。（写真 1）

このうち題目板碑がほとんどを占める日蓮宗地域の小池の浅野七男家畑地の 15 基と平戸台墓地の 3 基については『史談八千代』48 号で報告（注 4）した。

そのほかの地域の種子板碑について、神野の小名木淳家から寄贈された板碑 14 基の実物と拓本 13 点、吉橋高本湯浅家と神野の福田家、米本逆水の桜井家、村上中郷の川島家の各 1 基ずつ、および村上正覚院 7 基の拓本と『市



写真 1. 市博物館での資料の照合と採拓作業
2023. 6. 14

史』データとの照合作業を行った。

なお文中、①～⑬は本稿の図2～4の拓影の番号、「A～X+数字」は『市史』データの番号、「No.」は『八千代市内の有刻板碑集成』の通しNo.を示す。

(1) 神野の小名木淳家・福田広家の板碑

神野の小名木淳家の資料では、館蔵拓本と『市史』データ L1 から L13 までの 13 点が照合可能で、2021 年 12 月の当会主催「ふるさとの歴史展」では、新発見の土井昭雄家の板碑群展示の参考資料として、小名木家からも板碑 3 点をお借りし、また館蔵拓本 2 点の複写も合わせて展示した（写真 3）経過がある。

借用した当時、板碑群は小名木家の庭の小祠に重ねて入れてあり、運び出して洗浄しながら実物を熟覧（写真 2）、さらにその後、市博物館に寄贈されたことにより、2023 年の 6 月、博物館で板碑実物と拓本の照合作業がスムーズにできた。



写真 2. 神野の小名木家の祠から板碑を搬出

2021. 9. 16



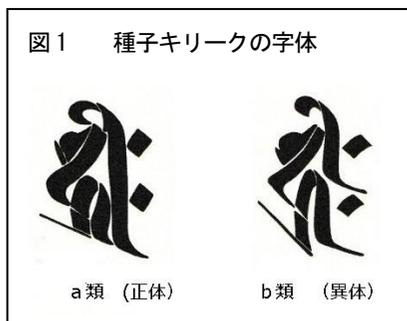
写真 3. 「ふるさとの歴史展」での
小名木家板碑の展示 2021. 12. 2

図 2 の①L1 (No.34) の康永 3 年 (1345) 銘と②L2 (No.35) の貞和 3 年 (1347) 銘の板碑は、頭部の二重線、b 類 (異体) 阿弥陀一尊種子 (図 1 注 11・12)、蓮座は①が線彫りタイプ、②は蓮弁が葉研彫りタイプである。

共に下部に、「徳利型 a」タイプ (注 13) の花瓶と年銘を刻するが、①は花瓶 1 基を中央に、年銘をその左右に振り分け、②は年銘を中央に 1 行、花瓶 2 基を左右に配する。

双方共に、八千代市及び印旛地域の 14 世紀中葉の典型的な意匠の阿弥陀一尊種子板碑で、その拓影は板碑編年などの指標になりうると思われる。

図 1 種子キリクの字体



③のL6 (No.39) は、『市史』データでは、「〔応永〕カ三年月 日」と記載されているが、『千葉縣史料 金石文篇』(注10)と照合したところ、その第二巻「印旛郡323」では「建武三年」であった。2023年7月4日、小名木家L6板碑の実物と館蔵の拓本を観察。拓影では不鮮明であったが、実物に光を当てて確認したところ『市史』の「〔応永〕三年」ではなく『縣史』のとおり「建武三年」であることが確認された。

建武3年(1336)は南北朝時代、応永3年(1396)は室町時代で、時代も一時代遡ることとなり、『市史』による年銘から正式に修正されることになった。

④と⑤は銘文のない断碑で、館蔵拓本のベータベースの法量がほぼ一致した『市史』データのL12・L13と確定した。

④は、L12 (No.45) で、断碑で年銘を欠く。キリークの書体の崩れと弧線状に簡略化された蓮座の形は、⑩のJ1 (No.31) 吉橋高本の永正2年(1505)銘板碑に類似し、15世紀末から16世紀初頭と推定される。

⑤は二条線があり、キリークと蓮座の表現から14世紀中葉と推定する。

⑥は『市史』データのL14「キリーク有・高さ21×幅18.5cm」とみなした断碑で、無刻と思われていた断片(高さ29×幅13cm)の拓本を採ったところ、蓮座の一部とキリークの「ラ点二画」の斜め棒線の一部とその上部が確認できたので、法量に差があったが、一応L14 (No.47) と推定した。

図3の⑦N1 (No.57) は、『市史』翻刻で「文和5年カ」と推定されている神野の福田家の板碑の拓本で、年銘を再確認したかったが、拓本のみで実物は実見していない。

(2) 米本逆水の板碑

図3の⑧P1 (No.60) と⑨P3 (No.62) は米本逆水の桜井家克己家墓地の板碑で、⑧は阿弥陀三尊の延慶3年(1310)銘、⑨は阿弥陀一尊の貞和2年(1346)銘板碑である。

共に二条線と花瓶を刻する。蓮座は⑧は薬研彫り、⑨は線彫りである。

米本逆水では下総型板碑1基を含む多量の24基について、『市史』にそのデータがあるが、⑧と⑨以外の拓本はまだ見つかっていない。

(3) 村上中郷と正覚院・巖島神社の板碑

『市史』には、村上の板碑として、村上中郷の川島勤家の母屋の下から出土した⑩V1 (No.107) と、正覚院のW2~W13 (No.108~119) の12基、村上巖島神社(起木の弁天)の⑩X1 (No.128) の1基が記載されている。

このうち、今回の調査で、⑩と⑩のほか、正覚院12基のうち⑩W4 (No.110) の拓本と、『市史』に拓影写真があるW13断碑の実物が館蔵されていることが判明した。

図3の⑩は「貞」の字のみで、貞和(1345~50)か貞治(1362~68)のどちらかであるが、筆者は市内の板碑の年代別頻度と種子・蓮座の彫り方から貞和年間と推定したい。

⑩は『市史』では「嘉吉(1441~44)カ」とされているが、⑧や⑩と比較して、嘉暦(1326~29)にさかのぼる可能性も否定できないと思われる。

図3の⑩W14* (No.120) から図4の⑩(W21* No.127) は、『市史』に記載のない正覚院の板碑群8基のうちの4基である。『市史 通史編』編さん過程での故村田氏の手書きメモに、「W正覚院 追加の8基」として「W14*~W21*」とする板碑(本稿では「*」をつけて仮番号として表示する)の法量と刻字などが記されていたデータを参照し、集成用データとした。

⑩のW14* (No.120) の阿弥陀三尊の断碑と、図4の⑩(W15* No.121) の花瓶付き

の阿弥陀一尊断碑は、故村田氏メモに「境内出土地不明」とある。二条線がなく、種子の字体の崩れ方から 15 世紀後葉から 16 世紀前葉と推定したい。

図 4 の⑭W20* (No.126) は、1993 年正覚院の裏手の発掘調査で見つかった断碑で、珍しい a 類 (正体) のキリーク (図 1) を刻む。

種子板碑のほとんどは阿弥陀の種子キリークを刻み、その字体は武蔵型板碑では b 類 (異体) が主流である。

a 類の種子は坐像の阿弥陀如来を、b 類の種子は立像の阿弥陀如来を表徴するという (注 11・注 12)。13 世紀中葉に始まった武蔵型板碑の造立は、来迎する阿弥陀如来を念じる浄土信仰の新思潮の中で、坐像の a 類から来迎を意味する立像の b 類重視へと急激に変化し、14 世紀第 2 四半期にそのピークを迎えた (注 12)。

市内の板碑の造立は、14 世紀第 2 四半期に第 1 のピークを迎えた後、14 世紀末にいったん終焉し、15 世紀第 2 四半期から再度造立が盛んになり、15 世紀末に第 2 のピークを迎える (『史談八千代』第 46 号 68 頁のグラフ 注 11)。⑭ (No.126) は、二条線がなく、蓮座も簡略されていることから、他地域でも a 類の復活が見られる第 2 のピークに造立されたと推定する。

なお、『市史』の真木野妙徳寺の C1 (No.14) の正応 6 年 (1293) 板碑データにキリーク a 類が当てられている。『史談八千代』48 号 (注 4) では図 3⑩にその C1 の拓影を載せたが、今回あらためて拓影を熟覧した結果、キリークの字の一部 (ラ点二画) しか確認できなかった。その結果、市内板碑でキリーク a 類と判断できるのは、今のところこの⑭ (No.126) のみということになる。

⑮W21* (No.127) は「正覚院庫裏の裏の楠の崖下から出土」と故村田氏メモにある断碑で、「□和四年五月 日」の銘と花瓶 2 基が刻されている。年銘は貞和 4 年 (1348) または、文和 4 年 (1355) が該当するが、花瓶の形が 1310~47 年の①・②・⑧・⑨・⑱に類似することから、貞和 4 年と推定したい。

なお、正覚院裏の発掘ではほかに、『史談八千代』第 46 号 (注 2) に拓影を載せた W18* (No.124) の康応 2 年 (1390) 銘の蝶型蓮座を持つ板碑と、完形ではあるがキリークのみがかろうじて確認できる W19* (No.125) の板碑が出土している。

村上では、辺田前の巖島神社 (「起木の弁天」伝承地) 出土の、『市史』で「種子のキリークが市内最高」と評されている⑯X1 (No.128) の阿弥陀一尊断碑の拓本が見つかった。種子のキリークは荘厳体で、年銘はなく『市史』では「鎌倉から南北朝時代」と推定している。『市史』の拓影写真はキリーク部分のみであったが、館蔵の拓本では二条線が確認され、「1 類」の「頭部に羽刻みおよび二条線・額を有する」(注 14) 形態から、鎌倉時代の 13 世紀にさかのぼる可能性があり、市内でも最古級の板碑と推定する。

荘厳体の種子板碑ではほかに、米本逆水の桜井家墓地に、建武 2 年 (1335) 銘の P2 (No.61) の下総型板碑があり、『市史』にもその拓影写真が載っている。

(4) 吉橋高本と萱田の板碑

図 4 の⑰J1 (No.31) は、高さ 63cm の完形で、吉橋高本の湯浅正之家の氏神社の横にあった。この地域は大規模な都市開発と区画整理で景観が一変し、現在、湯浅家氏神社は、緑が丘 8 丁目の 1 号街区公園に隣接して祀られ、その祠の右手前にこの⑰の板碑と断碑 1 基、断片 2 点が並べて立てられていた。(写真 4)

永正 2 年 (1505) の銘があり、二条線がなく、崩れた書体のキリークと弧線状に簡略化された蓮座などの特徴がある。

この特徴を有する類似した板碑として、神野の小名木家の L7 (No.40) や土井昭雄家板碑「No.10」(注 11 の図 1 の番号 集成 No.155) があり、いずれも年銘がないが、その年代を推定するためにこの⑩の板碑は重要な参考資料となる。

⑩の萱田梵天塚出土の K1 (No.32) は『市史』のほか、市博物館企画展図録『埋めて願う』(注 9) にその拓影が載っている。二重線・正確で明瞭なキリク・線刻の蓮座と花瓶は、その年銘正中 2 年 (1325) と共に、⑤や⑪の年代推定の手掛かりとなる。



写真 4. 吉橋高本の湯浅正之家の氏神
2019. 4. 29

おわりに

今回報告した種子板碑群の照合作業では、銘文中心の題目板碑群と異なって、『市史』データには種子と蓮座のみが記載され銘文のないものが多く、また館蔵拓本には間違った比定された拓本などがあって、その照合作業は難航し、最後に種子のみの断碑の拓本 2 点と「□五年二月日」銘のみの拓本の 3 点が、『市史』データに該当しない資料として保留となった。

また『市史』データのうち約半数の板碑については、まだその所在の再確認と採拓ができていない。これらの調査を今後続けて、その拓影を収集できれば、板碑研究に最適な資料となると思われるが、とりあえず、現時点で確認可能な全データと拓影の集成を行った次第である。

板碑データの約半数にとどまる『八千代市内の有刻板碑集成』の拓影集であるが、作成してみて、神野の小名木家の第 1 のピーク (14 世紀中葉) の典型例と、神野の土井昭雄家の第 2 のピーク (15 世紀後半) の典型例がそろい、年銘のないたくさんの板碑の年代推定の参考になったことが実感できた。

また、八千代市初発の板碑が、意外にも日蓮宗地域の真木野の正応 6 年 (1293) 銘と永仁 2 年 (1294) 銘の板碑で、蓮座と種子一部から種子板碑と推定できることと、次いで米本逆水の⑧の延慶 3 年 (1310) が続き、その優れた阿弥陀三尊種子板碑の拓影が確認できたことなど、興味深い発見があった。

再確認作業では、『市史』で「応永カ」とされていた③の小名木家の板碑が建武 3 年 (1336) にさかのぼることが判明、市博物館常設展示の小池 A8 (No.8) 題目板碑の銘文も「法主大□」から「法秀」と改めたことや、無刻と思われていた小池の題目板碑 3 基の銘を翻刻してデータに加えたことなどもあった。

さらに本会の活動の中で、神野で十三仏板碑、小池で貴重な明応 4 年の「逆修」銘板碑が、旧家からの申し出で新たに発見されたことは大きな喜びであった。

今後とも現地調査に努力して、全データの拓影集を完成できたらと思う。

最後に、集成のための館蔵資料調査にご協力いただいた八千代市立郷土博物館と同職員の常松成人氏、所蔵資料の調査をお許しいただいた神野の土井昭雄氏と三橋一宏氏と小名木伸雄氏、佐山の妙福寺様、小池の妙光寺様と浅野弘行氏、平戸の染谷正行氏、真木野地区の区長様、また調査と採拓にご協力くださった八千代市郷土歴史研究会の会員

皆様、下高野と正覚院追加分データについての故村田氏の手書きメモをご提供いただいた道上文氏、拓影からの翻刻に際してご教授いただいた房総石造文化財研究会会長の早川正司氏と板碑研究家の野口達郎氏に、厚く御礼申し上げます。

注

1. 「第二章中世 九金石文」『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』八千代市 1991年
2. 蕨由美『『八千代市の歴史 資料編』未掲載の板碑データ』『史談八千代』第46号 八千代市郷土歴史研究会 2021年
3. 蕨由美『『八千代市の歴史 資料編』未掲載の板碑データ2—下高野（補遺）&萱田君塚家墓地・小池妙光寺の板碑について—』『史談八千代』第47号 八千代市郷土歴史研究会 2022年
4. 蕨由美「佐山・真木野などの板碑調査と八千代市日蓮宗地域の有刻板碑の集成」『史談八千代』第48号 八千代市郷土歴史研究会 2023年
5. 蕨由美『八千代市内の有刻板碑集成—一覧表及び拓影と翻刻集—』私家版 2024年9月
6. 「第三篇 市域の板碑」『八千代市の歴史 通史編 上』八千代市 2008年
7. 蕨由美「神野の石造物—十三仏板碑・地藏像庚申塔・二夜叉付き庚申塔」『史談八千代』第47号 八千代市郷土歴史研究会 2022年
8. 蕨由美「八千代市小池の新発見の題目板碑」『史談八千代』第49号 八千代市郷土歴史研究会 2024年
9. 「Ⅲ 供養する」『企画展図録 埋めて願う～銭・壺・経筒～』八千代市歴史民俗資料館 1998年
10. 『千葉縣史料 金石文篇』三分冊 千葉県史料調査会 1975～1959年
11. 蕨由美「八千代市神野の2020年発見板碑群の調査の詳細報」『史談八千代』第46号 八千代市郷土歴史研究会 2021年
12. 三宅宗議「板碑の製作技法 補説 キリーク b類とは何か—阿弥陀種字の坐像と立像」『板碑の考古学』高志書院 2016年
13. 『大田区の板碑集録』大田区教育委員会 2012年
14. 磯野治司「13世紀前半 武蔵型板碑の形式編年」『板碑の考古学』高志書院 2016年

追記1：『史談八千代』第48号拙稿の通しNo.の訂正とお詫び

八千代市内の板碑集成に際して、当初に数に入れていた『史談八千代』第46号（注2）の86頁図7掲載の島田台間見穴遺跡の板碑拓影5点のうち、4と5の2点は無刻板碑であったので、『史談八千代』第48号発刊以後の「八千代市内の有刻板碑集成」の編集作業において削除しました。

そのため『史談八千代』第48号の「佐山・真木野などの板碑調査と八千代市日蓮宗地域の有刻板碑の集成」（注4）の100～110頁の集成通しNo.については、間見穴遺跡の4.（No.141）と5.（No.142）を欠番とし、2番繰り上げて、No.143～No.166をNo.141～No.164としました。

『史談八千代』第48号をご覧になる皆様におかれましては、お手数ですが、No.141以降のNo.の訂正（例：No.143⇒No.141、No.166⇒No.164）をお願いするとともに、謹んでお詫び申し上げます。

図2 神野の小名木淳家の板碑拓影

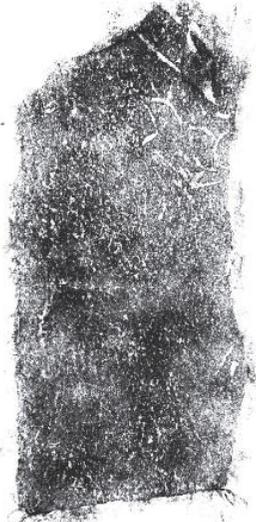
<p>① L1 (No. 34) 康永3年(1344) 75.0×25.0 cm</p>	<p>② L2 (No. 35) 貞和3年(1347) 84.0×26.0 cm</p>	<p>③ L6 (No. 39) 建武3年(1336) 64.5×19.0 cm</p>
		
<p>④ L12 (No. 45) 年欠 48.0×19.0 cm</p>	<p>⑤ L13 (No. 46) 年不明 35.0×18.5 cm</p>	<p>⑥ L14 (No. 47) 年欠 29.0×13.0 cm</p>
		

図3 神野・米本逆水・村上・吉橋高本・萱田の板碑拓影

<p>⑦ N1 (No.57) 神野 福田広家 文和5年 (1357) 52.0×16.0 cm</p>	<p>⑧ P1 (No.60) 米本逆水 桜井家 延慶3年 (1310) 90.0×26.0 cm</p>	<p>⑨ P3 (No.62) 米本逆水 桜井家 貞和2年 (1346) 65.0×23.7 cm</p>
		
<p>⑩ V1 (No.107) 村上中郷 川島勤家 年不明 46.0×22.5 cm</p>	<p>⑪ W4 (No.110) 村上 正覚院 年不明 50.4×25.0 cm</p>	<p>⑫ W14* (No.120) 村上 正覚院 年欠 41.0×20.5 cm</p>
		

図4 村上・吉橋高本・萱田の板碑拓影

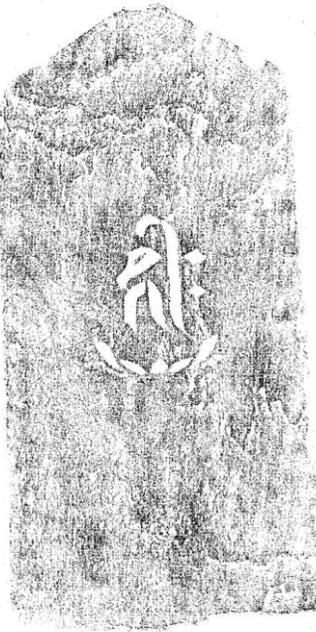
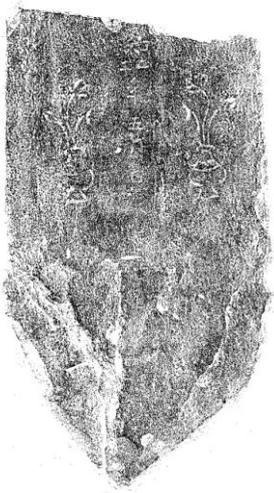
<p>⑬ W15* (No.121) 村上 正覚院 年不明 33.0×12.0 cm</p>	<p>⑭ W20* (No.126) 村上 正覚院 年不明 50.0×24.0 cm</p>	<p>⑮ W21* (No.127) 村上 正覚院 年不明 48.0×26.0 cm</p>
		
<p>⑯ X1 (No.128) 村上巖島神社 年不明 52.0×29.5 cm</p>	<p>⑰ J1 (No.31) 吉橋高本 湯浅正之家 永正2年(1505) 63.0×19.0cm</p>	<p>⑱ No.32 (K1) 萱田 梵天塚 正中2年(1325) 63.0×26.5 cm</p>
		

表 八千代市内の有刻板碑集成一覧表

No. *	地区	出土地又は所在地	高さ cm	現況	主尊	種子・題目 目の分類	銘文など	造立年月 日(銘))	西暦
1	小池	浅野七男家	61.0	完形	題目	題目二尊	南無妙法蓮華經 南無大聖人／寶 如來／迦如來	応永八年 三月十六 日	1401
2	小池	浅野七男家	26.0	断碑	題目	曼荼羅	□□妙蓮□／多 寶如來 鬼子母 神／妙法蓮華經 法主大／迦牟尼 佛十羅刹女	應永廿二 []	1415
3	小池	浅野七男家	37.0	断碑	題目	題目二尊	無多寶如來／無 妙法蓮華經 妙 法／[]迦牟尼 佛	嘉吉二 ／[正]月	1442
4	小池	浅野七男家	67.0	完形	題目	曼荼羅	南無多寶如來 鬼子母神／南無 妙法蓮華經 南 無法主大聖人／ 南無釈迦牟尼仏 十羅刹女／敬白	応[仁]三 年己丑二 月	1469
5	小池	浅野七男家	49.0	完形	題目	曼荼羅	南無[多]寶如來 ／南無妙法蓮華 經 南無法主大 聖人／南無釈迦 牟尼佛／十羅刹 女／施主	文明六年 甲午二月 時正	1474
6	小池	浅野七男家	42.5	完形	題目	曼荼羅	鬼子母神／南無多 寶如來／法主大 聖人／南無妙法 蓮華經／妙正比 丘尼(菩提)南無 釈迦牟尼仏／十 羅刹女	永正十一 年 四月 十四日	1514
7	小池	浅野七男家	53.0	完形	題目	曼荼羅	大持国天王(不動 明王) 大広目天 王／大日天王鬼 子母神／南無多 寶如來 南無文 殊師利菩薩 右 志□妙上／比丘 尼菩提也／南無 妙法蓮華經 南 無法主大聖人／ 南無釈迦牟尼仏 南無普賢菩薩菩 提／大月天王十 羅刹女／大毘沙 門天王(愛染明 王) 大增長天王	[八]季十 月十二日	
8	小池	浅野七男家	44.5	完形	題目	一遍首題	南無妙法蓮華經 法秀／禪尼	文明十二 年／六月 廿三日	1480
9	小池	浅野七男家	53.5	完形	題目	一遍首題	南無妙法蓮華經 ／右為逆修七分 全得也／敬白	延徳二年 壬午三月 日(逆修)	1490
10	小池	浅野七男家	43.5	断碑				年二月日	

11	小池	浅野七男家	33.0	断碑	題目	曼荼羅	南无多宝如来／大日天／南无妙法蓮華經／南無[]		
12	小池	浅野七男家	21.5	断碑	題目	題目	[]無法主大聖人／等 敬白	(大戈) 正月廿	
13	神久保	東福寺	27.0	断碑			(花瓶)	月 日	
14	真木野	妙徳寺	56.0	断碑	阿弥陀	キリークカ	(蓮座)	正應六年七月 日	1293
15	真木野	妙徳寺	40.0	断碑	阿弥陀	キリーク			
16	真木野	神明社	54.0	断碑	阿弥陀?			永仁二年二月 日	1294
17	佐山	妙福寺	54.0	完形	題目	曼荼羅	南無多宝如来 鬼子母神／南無妙法蓮華經法主 大聖人／南無釈迦牟尼佛 十羅刹[女]／敬白	明應七年二月	1498
18	佐山	妙福寺	48.0	断碑	題目	一遍首題	[] [為] 妙法 [靈] 也／蓮華經	[] 年 十月 [六] 日	
19	佐山	妙福寺	17.0	断碑	題目	一遍首題	蓮華	[] 年 口月 口日	
20	佐山	妙福寺(42.5	断碑	阿弥陀	キリーク			
21	平戸台	平戸台墓地	51.0	完形	題目	一遍首題	為悲母[]也／南無妙法蓮華經／孝子／敬白	明德三年壬申七月廿二日	1392
22	平戸台	平戸台墓地	73.0	完形	阿弥陀	キリーク		貞和二年 [] / []	1346
23	平戸台	平戸台墓地	69.0	完形	題目	一遍首題	[] / 南無妙法蓮華經 / []	[] 未八月六日	
24	島田	鈴木揚雄家	50.0	完形	阿弥陀	キリーク			
25	島田	鈴木揚雄家	50.0	完形	阿弥陀	キリーク			
26	島田	鈴木揚雄家	51.0	完形	題目	一遍首題	南無妙法蓮華經		
27	島田	鈴木揚雄家	56.0	完形	題目	一遍首題	南無妙法蓮華經		
28	島田	鈴木揚雄家	50.0	完形	題目	一遍首題	南無妙法蓮華經		
29	桑納	桑納墓地	72.0	完形	題目	一遍首題	[南無妙法蓮華] 經		
30	吉橋高本	湯浅節家	50.5	断碑	阿弥陀	キリーク		康永四年十月 日	1345
31	吉橋高本	湯浅正之家氏神	63.0	完形	阿弥陀	キリーク		永正二年 / 十月	1505
32	萱田	萱田梵天塚	63.0	完形	阿弥陀	キリーク	(花瓶)	正中二年 / 十月	1325
33	萱田	萱田梵天塚	16.0	断碑	阿弥陀	キリーク			
34	神野	小名木淳家	75.0	完形	阿弥陀	キリーク	(花瓶)	康永三年 / 十月 日	1344

35	神野	小名木淳家	84.0	完形	阿弥陀	キリーク	(花瓶)	貞和三年七月日	1347
36	神野	小名木淳家	56.5	断碑				貞和三年八月日	1347
37	神野	小名木淳家	62.0	完形	釈迦-	バク		貞和四年六月日	1348
38	神野	小名木淳家	51.5	完形	阿弥陀	キリーク		応[永]二年八月日	1395
39	神野	小名木淳家	64.5	完形	阿弥陀	キリーク		建武三年八月日	1336
40	神野	小名木淳家	65.0	完形	阿弥陀	キリーク		[]	
41	神野	小名木淳家	57.0	断碑	阿弥陀	キリーク	(光明真言梵字)	[]	
42	神野	小名木淳家	65.5	完形	阿弥陀	キリーク			
43	神野	小名木淳家	56.0	完形	阿弥陀	キリーク			
44	神野	小名木淳家	45.5	完形	阿弥陀	キリーク			
45	神野	小名木淳家	48.0	断碑	阿弥陀	キリーク			
46	神野	小名木淳家	35.0	断碑	阿弥陀	キリーク			
47	神野	小名木淳家	29.0	断碑	阿弥陀	キリーク			
48	神野	土井秀雄家	44.0	完形	阿弥陀	キリーク		延文〇年十一月日	
49	神野	土井秀雄家	43.0	完形	阿弥陀	キリーク		寛正六年	1465
50	神野	土井秀雄家	43.0	完形	阿弥陀	キリーク		〇〇五年十一月	
51	神野	土井秀雄家	39.0	完形	阿弥陀	キリーク			
52	神野	土井秀雄家	57.0	完形	阿弥陀	キリーク			
53	神野	土井秀雄家	48.5	完形	阿弥陀	キリーク			
54	神野	土井秀雄家	43.0	完形	阿弥陀	キリーク			
55	神野	土井秀雄家	38.5	完形	阿弥陀	キリーク			
56	神野	土井秀雄家	19.0	断碑	阿弥陀	キリーク			
57	神野	福田広家	52.0	完形	阿弥陀	キリーク		[文和五年]二月日	1356
58	神野	福田広家	56.0	完形	阿弥陀	キリーク			
59	神野	玉蔵院	160.0	下総型	胎蔵界大日如来	アーク	(戒名100名以上)		
60	米本逆水	桜井克己家墓地	90.0	完形	阿弥陀三尊	キリーク・サ・サク	(花瓶)	延慶三年二月日	1310
61	米本逆水	桜井克己家墓地	59.2	下総型完形	阿弥陀	荘嚴体キリーク	是法住法位／杵聞相常位／(後刻「桜井市郎兵衛ノ建」)	建武二年乙亥三月日	1335

62	米本逆水	桜井克己家墓地	65.0	完形	阿弥陀	キリーク	(花瓶)(裏面後刻「一ろ兵」)	貞和二年 /□月 日	1346
63	米本逆水	桜井克己家墓地	40.7	断碑	阿弥陀	キリーク	(後刻「一郎平」)		
64	米本逆水	桜井克己家墓地	38.0	断碑	阿弥陀	キリーク	(花瓶)	延文五[] /十一月 日	1360
65	米本逆水	桜井克己家墓地	45.7	断碑	阿弥陀三尊	キリーク・サ・サク	(花瓶)	明応□/ 十一月 日	
66	米本逆水	桜井克己家墓地	53.0	断碑	阿弥陀	キリーク		嘉 []	
67	米本逆水	桜井克己家墓地	46.3	断碑	阿弥陀	キリーク		[]五 年二月	
68	米本逆水	桜井克己家墓地	38.5	下総型断碑	阿弥陀三尊	キリーク・サク			
69	米本逆水	桜井克己家墓地	39.1	断碑	阿弥陀	キリーク	(花瓶)	[永正二 年]	
70	米本逆水	桜井克己家墓地	37.0	断碑	阿弥陀	キリーク			
71	米本逆水	桜井克己家墓地	47.8	断碑	阿弥陀	キリーク			
72	米本逆水	桜井克己家墓地	25.9	断碑	阿弥陀	キリーク			
73	米本逆水	桜井克己家墓地	45.0	断碑	阿弥陀	キリーク			
74	米本逆水	桜井克己家墓地	32.0	断碑	阿弥陀	キリーク			
75	米本逆水	桜井克己家墓地	37.9	断碑	阿弥陀	キリーク			
76	米本逆水	桜井克己家墓地	39.9	断碑	阿弥陀	キリーク			
77	米本逆水	桜井克己家墓地	52.5	断碑	阿弥陀	キリーク			
78	米本逆水	桜井克己家墓地	48.7	断碑	阿弥陀	キリーク			
79	米本逆水	桜井克己家墓地	43.5	断碑	阿弥陀	キリーク			
80	米本逆水	桜井克己家墓地	69.0	完形	阿弥陀	キリーク			
81	米本逆水	桜井克己家墓地	57.6	完形	阿弥陀	キリーク			
82	米本逆水	桜井克己家墓地	48.0	完形	阿弥陀	キリーク			
83	米本逆水	桜井家墓地 路傍	43.0	完形	阿弥陀	キリーク		貞和二年 十月	1346
84	米本逆水	逆水路傍	52.0	完形	阿弥陀	キリーク	(花瓶)	貞治[六 年]/月 日	1367
85	米本逆水	逆水路傍 日宮神社	36.0	断片	阿弥陀	キリーク			
86	保品	門倉昭家	70.0	完形	阿弥陀	キリーク			
87	米本内宿南	米本城跡	32.0	断碑	阿弥陀	キリーク	(花瓶))	康永三年 /[]	1344
88	米本	長福寺	30.0	断碑	阿弥陀	キリーク		文正二年	1467
89	米本	長福寺	48.2	完形	阿弥陀	キリーク		文明十六 年	1484

90	米本	長福寺	16.5	断碑	阿弥陀	キリーク		文明 []	
91	米本	長福寺	26.0	断碑	阿弥陀	キリーク		延[徳]	
92	米本	長福寺	54.4	完形	阿弥陀	キリーク		明應四年	1495
93	米本	長福寺	53.5	完形	阿弥陀	キリーク		明應五年	1496
94	米本	長福寺	35.5	断碑	阿弥陀	キリーク	(花瓶)	明應六年	1497
95	米本	長福寺	38.0	断碑	阿弥陀	キリーク	(花瓶)	明應六年	1497
96	米本	長福寺	37.4	断碑				文亀三年	1503
97	米本	長福寺	55.0	完形	阿弥陀	キリーク		文亀四年	1504
98	米本	長福寺	50.0	完形	阿弥陀	キリーク		永[正]七 [年]	1510
99	米本	長福寺	51.0	完形	阿弥陀	キリーク	(花瓶)	永正八年	1511
100	米本	長福寺	48.0	完形	阿弥陀	キリーク		永正九年	1512
101	米本	長福寺	51.0	完形	阿弥陀	キリーク		永正[十] 年	1513
102	米本	長福寺	31.0	断碑	阿弥陀三 尊	キリー ク・サ・ サク		享祿 []/ □月[日]	
103	米本	長福寺	27.5	断碑	阿弥陀	キリーク		建[]	
104	米本	長福寺	20.4	断碑	阿弥陀三 尊	キリー ク・サ			
105	米本	長福寺		断碑	阿弥陀	キリーク			
106	米本	長福寺	29.0	断碑	阿弥陀	キリーク			
107	村上中 郷	川島勤家	46.0	断碑		キリーク		貞(和カ 治)	
108	村上	正覚院	30.5	断碑				寛正六年	1465
109	村上	正覚院		断碑	阿弥陀三 尊カ	蓮座2並 列	沙弥/□日	[康]永三 年甲申十 月廿七日	1344
110	村上	正覚院	50.4	断碑	阿弥陀	キリーク		[嘉吉]	
111	村上	正覚院	52.0	断碑	阿弥陀三 尊	キリー ク・サ・ サク			
112	村上	正覚院	38.0	断碑	阿弥陀三 尊	キリー ク・サ・ サク	(花瓶)		
113	村上	正覚院	47.0	断碑	阿弥陀カ		(蓮座・花瓶)		
114	村上	正覚院	20.5	断碑			(花瓶)		
115	村上	正覚院	19.0	断碑	阿弥陀	キリーク			
116	村上	正覚院	19.0	断碑					
117	村上	正覚院	21.0	断碑	阿弥陀	キリーク			
118	村上	正覚院	26.0	断碑	観音	サ			
119	村上	正覚院 浅間神社	42.0	断碑			(花瓶)	十二月日	
120	村上	正覚院	41.0	断碑	阿弥陀三 尊	キリー ク・サ・ サク			
121	村上	正覚院	33.0	断碑	阿弥陀	キリーク	(花瓶)		
122	村上	正覚院	25.0	断碑	阿弥陀	キリーク			

123	村上	正覚院	12.0	断碑	阿弥陀	キリーク			
124	村上	正覚院	54.8	完形	阿弥陀	キリーク		康応二年	1390
125	村上	正覚院	43.0	完形	阿弥陀	キリーク			
126	村上	正覚院	50.0	断碑	阿弥陀	キリーク a類			
127	村上	正覚院	48.0	断碑				□和四年 五月 日	
128	村上辺 田前	巖島神社 起木弁天	52.0	断碑	阿弥陀	荘巖体 キリーク			
129	下高野	天神第一 地点 1①	46.0	略完 形	阿弥陀	キリーク		文明十三 年	1481
130	下高野	天神第一 地点 1②	41.2	断碑	阿弥陀	キリーク			
131	下高野	天神第一 地点 1③	39.0	断碑					
132	下高野	天神第二 地点 2②	48.5	完形	弥陀三尊	弥陀三尊		文明十五 年	1483
133	下高野	天神第二 地点 2③	33.0	断碑	阿弥陀	キリーク	妙[全]	文正二年 二月一 []	1467
134	下高野	天神第二 地点 2- ⑤	54.7	略完 形	阿弥陀	キリーク		文正二年	1467
135	下高野	天神第三 地点 3- ①	47.0	完形	阿弥陀	キリーク			
136	上高野	金乗院	60.5	完形	阿弥陀三 尊	キリー ク・サ・ サク	[浄] 阿弥陀 [尼]	文明十一 年/月 日	1479
137	平戸	染谷正行 家	48.5	断碑	題目	曼荼羅	大持国天王(不動 明王)/大日天王 鬼子母 []/南 無多寶如来/南無 妙法蓮華經/南無 釈迦牟尼佛/大月 天王 十羅刹 []/大 [] (愛染明王)		
138	島田台	間見穴遺 跡	31.0	断碑	題目	一遍首題	南無妙法蓮華經		
139	島田台	間見穴遺 跡	46.0	完形	題目	一遍首題	南無妙法蓮華經		
140	島田台	間見穴遺 跡	27.5	断碑	題目	一遍首題	南無妙法蓮華經		
141	萱田	君塚長右 衛門家墓 地	60.5	断碑	阿弥陀三 尊	キリー ク・サ・ サク			
142	小池	妙光寺	53.5	完形	題目	十界曼荼 羅	大日天王 孝子 敬白/南無无邊行 菩薩 南無大梵 天王 鬼子母神/ 南無上行菩薩 南無舍利弗尊者 等/南無多寶如来	延徳四年 (異体字) 五月廿三 日	1492

							南無文殊師利菩薩/南無妙法蓮華經 南無法主聖人/南無釈迦牟尼佛 南無弥勒菩薩/南無淨行菩薩 南無釋提桓因 十羅刹女/南無安立行菩薩 大月天王 妙法比丘尼石佛也		
143	小池	妙光寺	44.6	完形	題目	題目二尊	南無多寶如來／南無妙法蓮華經／南無釈迦牟尼佛	文明五年 [癸] 巳八月	1473
144	小池	妙光寺	40.5	断碑 (2点接合)	題目	題目二尊	[]/[] 蓮華經／南無釈迦牟尼佛／過 [去]妙日比丘尼 ／敬白	文明二年 十月日	1470
145	小池	妙光寺	36.5	断碑	題目	一遍首題	[]／南無妙法蓮華經	應永廿九年十月二日	1422
146	神野	土井昭雄家	58.0	完形	阿弥陀	キリーク	(花瓶)	延文三年十一月日	1358
147	神野	土井昭雄家	53.0	完形	阿弥陀	キリーク	(花瓶)	延文二年十月日	1357
148	神野	土井昭雄家	43.0	完形	阿弥陀	キリーク		延文五年十一月日	1360
149	神野	土井昭雄家	44.0	完形	阿弥陀	キリーク		長祿五年月日	1461
150	神野	土井昭雄家	42.0	完形	阿弥陀	キリーク		寛正六年	1465
151	神野	土井昭雄家	38.0	完形	阿弥陀	キリーク		文明九年	1477
152	神野	土井昭雄家	47.0	完形	阿弥陀	キリーク		[]	
153	神野	土井昭雄家	28.0	断碑	阿弥陀	キリーク	(花瓶)	文明十年	1478
154	神野	土井昭雄家	24.0	断碑				文正二年	1467
155	神野	土井昭雄家	53.0	完形	阿弥陀	キリーク			
156	神野	土井昭雄家	38.0	断碑	阿弥陀	キリーク			
157	神野	土井昭雄家	47.0	完形	阿弥陀	キリーク			
158	神野	土井昭雄家	17.0	断碑				文正二年	1467
159	神野	土井昭雄家	22.0	断碑	阿弥陀	キリーク			
160	神野	土井昭雄家	29.0	断碑	阿弥陀	キリーク	(花瓶)		
161	神野	三橋一宏家	33.0	断碑	十三仏	キリーク b・バ ン・サ ク・サ・ バイ			

162	小池	浅野七男 家畑地	67.0	完形	題目	一遍首題	道〔 〕比丘 尼／南無妙法蓮 華經	明德二年 未口	1391
163	小池	浅野七男 家畑地	56.0	断碑	題目	曼荼羅	口道〔 〕／ 口子母神／ 〔 〕蓮華經 ／十羅刹女	應永十年 二月〔二 日〕	1403
164	小池	浅野七男 家畑地	61.0	完形	題目	一遍首題	南無妙法蓮華經 口道〔 〕	永正七年 庚口	1510
165	小池	浅野七男 家畑地	40.5	断碑	題目	題目二尊	〔 〕妙法蓮 華經／〔 〕宝 如来／〔 〕釈 迦牟尼佛／妙法尼 逆修／石佛／明 應二二年乙卯八 月日敬白	明応四 (異体 字)年乙 卯八月日 (逆修)	1495

凡例

- ・No.の数字が太字＝『八千代市内の有刻板碑の集成』に拓影を掲載
- ・下線＝本稿で拓影を掲載。No. 165 は本号の別稿「八千代市小池の新発見の題目板碑」に記載
- ・種字の「キリーク」は、No. 126 以外、すべて「キリークb類」である。

追記2：神野の小名木淳家のNo. 37の板碑の種字は「バク」

本稿脱稿後、『八千代市内の有刻板碑の集成』の拓影をご覧になった早川正司先生から「神野の小名木淳家のNo. 37の板碑の種字はバクではないか」とご指摘があり、拓影⑩をみると確かに釈迦如来の「バク」であった。

『縣史』と『市史』記載の本板碑データの種字はキリークだったので、拓影を十分検討せず、『八千代市内の有刻板碑の集成』で、安易にキリークとしたことをお詫びし、「バク（蓮座）貞和四年六月日」と訂正する。

八千代市内の武蔵型種子板碑の主尊は、神野の十三仏板碑（No. 161）と村上正覚院の観音の種子「サ」の板碑（No. 118）以外、キリークの阿弥陀一尊か阿弥陀三尊であり、「バク」の種子の板碑は、この神野の図5の⑩L4（No. 37）の板碑が唯一であり、貴重な再発見であった。

ご指摘くださった早川先生に御礼申し上げるとともに、拓影の公開の重要性を認識させられた次第である。

また、本稿の（1）の項も書き直すべきであると思いましたが、構成からやり直すのは難しく、このような「追記」となったこともお詫びします。

図5 ⑩ L4 (No. 37)
貞和4年(1348) 62.0×20.0 cm

